スポーツ指導者養成コース・スポーツキャリア開発コース，スポーツマネジメント論

# 授業評価・授業研究報告

保健体育講座・藤原誠

## １．授業の概要

本授業はスポーツ健康科学課程スポーツ指導者養成コースのコース必修科目、および同課程，スポーツキャリア開発コースのコース選択科目として開講している。登録学生数はスポーツ指導者養成コース２回生 15 名,同３回生１名、同４回生１名、スポーツキャリア開発コース２回生６名、同６回生１名の計 24 名である。このうち、４回生および６回生は途中から受講を放棄したため、実質受講者数は２２名となった。

本授業では，社会において実施されている多様なスポーツについて、その領域、およびその現状について認識を深めるとともに、そのマネジメントについて理解することを目的としている。社会スポーツの現状と国のスポーツ政策との関連や、地域における公共スポーツ施設、商業スポーツ施設など、社会スポーツのマネジメントについて理解することをねらっている。授業の到達目標としては、社会スポーツの現状を国のスポーツ政策と関連づけながら説明できること、公共スポーツ施設の果たすべき役割や、そのマネジメントについて説明できること、商業スポーツ施設、特にフィットネスクラブの発展経緯や､現状、そのマネジメントについて説明できることをあげている｡ディプロマポリシーについては、知識・理解に関わる項目として、充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する確かな専門的知識を修得している、および、思考・判断に関わる項目として、現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる、これらが達成できるよう授業を実施している。

授業の方法・形態については、基本的には講義形式で行っているが、小グループでの話し合い・発表等も取り入れている。また視聴覚機器を用いての授業、個人の考えを発表する場の設定等、教員からの一方的な働きかけにとどまることがないよう配慮している。

授業内容としては、まず基本となるスポーツマネジメントの概念について説明するとともに、各自が所属している、あるいは所属していたスポーツクラブのマネジメントの状況について振り返ることからはじめている。身近なスポーツクラブを意識することにより、マネジメントの要素について理解を深めることができるものと思われる。

近年、社会におけるスポーツは多様な様相を呈しており、そのマネジメントも，その領域により多様な要素が関わりをもっている。平成 12 年に文部省より｢スポーツ振興基本計画｣が出され、それ以後、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実が言われるようになってきた。その後、平成 22 年には｢スポーツ立国戦略－スポーツコミュニティ・ニッポン｣が策定され、国の政策として、一般の人々の生涯スポーツの振興が重要な政策課題として浮かび上がってきた。平成 23 年には｢スポーツ基本法｣が制定され､平成 24 年には｢スポーツ基本計画｣が策定されたが、その政策理念は継続・維持されている。このような日本における近年の政策理念の背景にあるのは欧州のスポーツ政策であり、本授業では日本のスポーツ政策策定に影響を及ぼした欧州のスポーツ政策について取り上げている。日本において昨今提唱されている総合型地域スポーツクラブは、欧州のスポーツクラブを念頭に置いたものであり、欧州のスポーツクラブの状況についてビデオ視聴を通して理解を深めるよう配慮している。また、日本における総合型地域スポーツクラブの状況についてもビデオ視聴を行い、欧州との相違、問題点等を認識できるようにしている。

また、国のスポーツ政策とも関連する地方公共団体のスポーツ政策についても、一般住民の立場からスポーツ実施に関係するスポーツ環境等について検討している。具体例として、愛媛県や松山市の公共スポーツ施設を取り上げて、その状況を分析し、問題点等につ

いて考察している。さらに、一般の人々のスポーツの場として定着してきたフィットネスクラブについても、これまでの発展経緯や近年の動向等をマネジメントの観点から考察している。

## ２．アンケート結果

アンケート調査を講義の最終日に実施した。できるだけ具体的な内容が把握できるよう、自由記述による回答とした。

結果の概要は以下の通りである。

### 1）授業に対する取り組み状況

「まじめな態度で積極的に授業に参加することができた」、「授業中はメモをとり、先生の説明を興味・関心をもってしっかりと聞くことができた」にみられるように、多くの者の授業態度は良好であった。しかし、「基本的にはまじめに取り組めたが、欠席を数回してしまった」、「遅刻をしてしまうことがあったので反省したい」など、欠席や遅刻について反省する者もいた。全体的には特に出席状況が悪いわけではないが、特定の者が欠席や遅刻を繰り返す傾向がみられた。授業中の取り組み以前の問題として自覚をもった対応が求められる。なお、登録学生のうち２名の者は途中から授業に出席しなくなり、出席不足により評価できない状況となった。

### 2）授業内容や理解の程度

「授業内容については、プリントや板書を用いており、理解することが容易にできた。授業レベルは、ちょうどいいと思う」、「授業レベルは今のままでよいと思う。授業のスピードも適度で、しっかり理解しながら受けることができた」、「内容やレベルは良かったと思う。自分なりに理解できたつもりでいる」など、概ね受講生に見合った内容，レベルであったと思われる。しかし、「専門的で難しい内容もあった」との指摘もあり、今後、より理解が深まるよう配慮していくことにする。

### 3）一番関心をもった授業内容

「総合型地域スポーツクラブについて（ドイツの政策など）」、「ドイツのトリム運動」、「欧州の総合型スポーツクラブについての内容」など、ヨーロッパのスポーツ政策を含むスポーツ状況に対する関心が高くなっている。また、「公共スポーツ施設」、「フィットネスクラブについて」など、一般の人々のスポーツ環境・スポーツ施設についての関心も高かった。可能な範囲で国内に限らず、多様なスポーツ状況について取り上げていこうと思う。

### 4）授業方法

本授業では理解を深めるために毎授業時に資料を配布している。また、受講生に質問をして各自の見解を述べる機会を設けている。さらに、設定したテーマについて小グループで話し合い、その結果を取りまとめて発表するという手法も取り入れている。

アンケートの回答には、「プリントを配り、大事なところは「線を引いて」と言ってくれるので、とても理解しやすかった。また、線を引いたところの補足説明もあり、良かった」、「グループで考えるのがよかった」、「質問を全員に答えさせているので、いろいろな人の意見が聞けて良いと思います」など、肯定的な記述が多いが、「プリントを見てもどこが重要なのかわからなかった」、「先生の話す時間がちょっと長かったので、眠くなることがありました」という指摘もあった。受講生が初めて学ぶ分野ということもあり、理解してほしいという気持ちから多くの資料を配布し、説明が長くなってしまったのかもしれない。

### 5）授業環境

授業の環境については、問題等の指摘はなかった。

### 6）授業全般について

特に考慮すべき事項に関する記述はみられなかった。

## ３．総括

授業の内容・方法については、受講生の関心事を考慮しながら、また、専門的な内容も理解できるように、視聴覚機器や資料等を有効に使いながら、わかりやすく説明するようにしたい。授業の形式について、学生の参加意欲を高めるため、グループでの討議・発表、個人での発表の機会を多く設ける等、授業改善に取り組んでいきたい。